

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	不登校生徒の身体状況、食・生活習慣、精神状態、QOL、環境における実態調査による課題の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	桑野 稔子
	研究分担者	所属・職名	東洋大学・教授	氏名	井上 広子
		所属・職名	京都女子大学・講師	氏名	橋本 彩子
		所属・職名	フリースクール元気学園・校長	氏名	小林 高子
		所属・職名	岐阜大学医学部	氏名	杉山 三知代
	発表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	桑野 稔子

講演題目
不登校生徒の身体状況、食・生活習慣、精神状態、QOL、環境における実態調査による課題の検討
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>【背景・目的】 現在の日本において、児童生徒の不登校は大きな社会問題の一つである。文部科学省の調査によると、令和3年度に「不登校」を理由に30日以上欠席した児童生徒は不登校児童生徒数は244,940人（前年度196,127人）で、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は25.7人（前年度20.5人）。不登校児童生徒数は9年連続で増加し、過去最多となっている。学校現場においては、家庭への働きかけ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用など、さまざまな取り組みが行われているが、不登校の児童生徒は増加の一途をたどり、解決に結びつくエビデンスが不足している。</p> <p>一方、不登校の児童生徒は、調査をすることが難しく、不登校児童生徒の支援に必要なデータが不足している。そのため、日本における児童生徒の不登校の原因と解決のための詳細なデータが極めて乏しい現状にある。</p> <p>そこで、本研究では、継続的に実施してきた不登校の児童・生徒の身体状況、食・生活習慣、精神状態、QOL、環境における実態を把握し、不登校解決のための方法を検討するための基礎資料の作成を目的に研究を遂行する。</p> <p>【方法】 本学研究倫理審査委員会の承認後、S県S市内のフリースクールの相談会に参加した不登校生徒（中学生）119名とその保護者を研究対象とし、身体計測、食・生活習慣、食物摂取状況、家族機能、精神状態、健康状態、QOLに関する調査を行った。</p> <p>統計解析は、SPSS 25.0 J for windowsにて行い、有意水準は5%未満とした。</p> <p>【結果・今後の展望】 不登校生徒には、痩身傾向児が多く、エネルギー・栄養素摂取量が少ない状態にあり、身体活動レベルが低いことが明らかとなった。この背景となる、朝食欠食、食事量のむら、夜型の生活などの生活習慣上の問題も確認でき、中学生の成長・発達、健康維持・増進に見合う身体活動や食事摂取ができていない可能性が示された。さらに、精神状態や健康状態が悪く、幸福度とQOLが低い状態であり、生活習慣等の改善を含めた早期介入が必要であることが示唆された。また、家族機能低下状態であり、保護者を含めた家庭への支援が必要であることが示唆された。</p> <p>本実態評価の結果は、日本の不登校生徒に対する有効な支援方法の検討のための基礎資料として貢献できると考える。</p>